

平成30年度 呉羽高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路指導の充実）
重点課題	進路意識を高め、進路目標の実現に向けて学力を向上させる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己の能力や適性を的確に判断しようとする意識、将来の進路に関する目標設定が低く、そのため学習への意欲が弱く取り組みの甘い生徒が多い。 ・生徒一人ひとりがまず自分をよく知り、将来の進路への意識を高め、主体的かつ持続的に考えながら選択し、目標実現に向けて努力していけるようにすることが最も大切である。 ・そのための方策を系統立てて明示し、学校生活の中で時期を意識しながら伝えることや、学期の進行や学年進捗とともに進路意識を熟成させられるような支援システムを構築する必要がある。
達成目標	<p>今年度オープンキャンパスや学校説明会に参加した生徒の割合</p> <p>1年生は80%以上、2年生は80%以上、3年生は20%程度</p>
方 策	<p>○3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり、進路志望実現を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年・・・生活習慣や学習習慣を確立させる。「総合的な学習の時間」等で進路研究を行い、自己理解や適性を把握させる。また、適切な文理選択を支援するため、漠然とした進路希望を持つ生徒や、進路選択に悩む生徒が自己の適性を知り、自分の将来について主体的に考えられるような機会を設ける。 ・第2学年・・・HR等を通して大学や学部について研究し、自己の適性をふまえた進路選択ができるよう指導する。「大学招請講義」では自分が興味関心のある講義を実際に受講し、学部・学科選択の一助とさせる。また、「合格体験報告会」では先輩達の進路への心構えや学習法などを実際に聞き、新年度に向けて学習への意欲を高めさせる。 ・第3学年・・・高い進路志望を持ち、実現できるように長期・中期・短期の学習計画を立てさせ、進路実現に向けて最大限の努力をさせる。また、HR、学年集会や外部講師による進路講演会等から、具体的な進路情報を得て、進路志望実現に向けて主体的に学習に取り組ませる。 <p>○個人面接やHR等を通して、学習習慣や生活習慣の見直しをさせるとともに、早期に志望校を明確化できるようオープンキャンパスや学校説明会への参加を勧める。</p> <p>○校内模試や外部模試を有効に活用し、結果を学年会や進路検討会で分析しながら教員間で情報を共有し、授業や個別指導（教科添削、小論文、面接）に活かす。</p> <p>○入試動向を調査し、それらをもとに本人の適性や成績・意欲などを総合的に勘案し、適切な志望校選択を支援する。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)